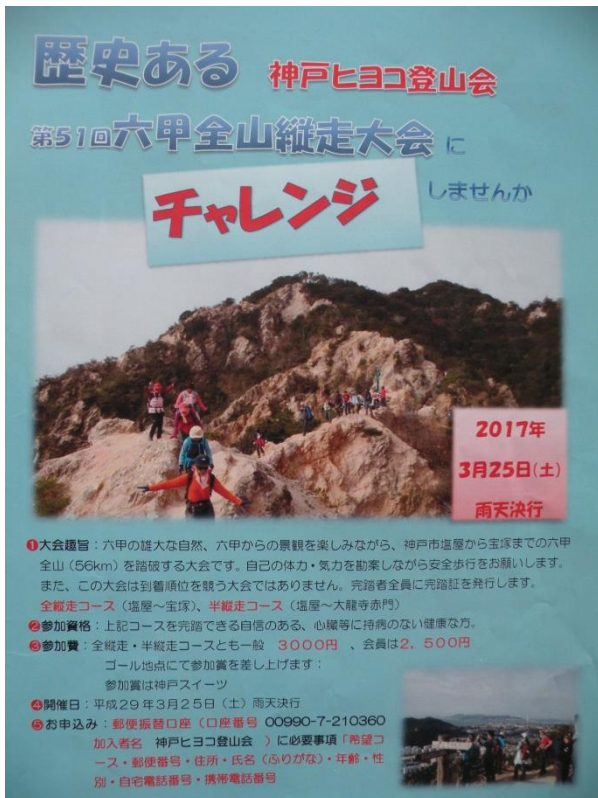


◎2月25日(土)開催 第2972回例会  
単独例会(兼第51回ヒヨコ全縦トレⅡ)  
「冬の裏六甲有馬から表六甲住吉道を歩く」  
布引支部 H.Y

ヒヨコ登山会のメイン行事として行って来た「六甲全山縦走大会」も、昨年で第50回目となり、その節目として企画した記念大会は、参加資格をヒヨコ会員のみ限定。中間点となる摩耶山上「オテル・ド・まや」にて慰労祝賀会を取り入れ、半縦参加者、全縦参加者それに縦走を懐かしむ諸先輩を加えた1泊2日の豪華な記念大会となり、宿泊可能限度数であった60名は、大いに盛り上がった思い出に残る記念大会となった。



第51回目となったヒヨコの六甲全縦募集チラシ

さて、縦走大会を継続するか否か?は、例会委員会で慎重に検討された。・・・結果「会員が毎日登山で培った体力だめしの為に」として行って来た行事ではあるが、会員の高齢化に伴いここ数年参加者が激減してきたこともあり、発想の転換時期であるとの意見で一致。第51回目となる本年からは「募集対象のメインを一般参加者」とし、

チラシの作製にかかった・・・という次第である。その縦走の2回目のトレーニングを兼ねた単独例会が、六甲山地縦断という形で行われた。

2月25日(土)有馬温泉9時集合。風も無く、比較的穏やかな縦断日和である。有馬川の河川敷で準備体操を行い、登山口となる有馬稲荷神社へと向かう。温泉会館前の坂道をゆっくりと歩きながら、ふと有馬温泉のことが頭に浮かんだ。

ここ数年、有馬温泉の湯量が少なくなり、宿泊施設への送湯がままならない状態になってきているらしいとのことを耳にしていたが、坂の途中にある極楽泉源?や、御所泉源?がボーリングを行っているような感じを受けた。「日本最古の温泉。すなわち人間がまだ土を掘る技術を持たない時代より大地の恵みを蓄え湧き出していた自然の温泉である。技術の発達した現在でも、浅い場所からの採湯とし、温泉の有効成分を十分に蓄えたお湯を提供している。」・・・との有馬温泉宣伝文句であるがゆえ、豊富な湯量が噴き出すことを願うばかりだ。

有馬稲荷神社へ着くと、「神社暦」を数冊持って宮司さんが出迎えて下さった。神社裏側からのコースは魚屋道へ合流する近道となるのだが、そのあたりは下見がてらに歩いた記事として「ぶらっと山歩」に記しているの山頂までのコース等については割愛します・・・。



男性だけで写真に納まることは珍しい!

少しぬかるんだ山頂だったが、風も無く、展望を楽しんだ後、久しぶりに六甲山頂での記念写真に納まった。



山頂での集合写真。

風はない・・・と言ってもこの時期、じっとしていると寒くなるので、一軒茶屋南側まで下り、登山道の両側に腰を下ろして昼食タイムとした。



陽だまりでのランチタイム



旧山頂リリーフをバックに美女・美男？



午後からのコースは七曲りを下り、住吉川左岸に沿っての住吉道を降りる予定であったが、天気も良く、日当りの良い右岸側の森林管理道を歩くことにした。あまり人の入らないこのコースは、登る起点場所に通行止に近い柵を施している為だろうと思う。

昼食で元気を取り戻した皆さん。フワフワした落葉を踏みしめ、他愛もないおしゃべりをしながら午後の歩きを楽しまれたのでした！・・・本番に向け、心と身体の準備を願うところです。

平成 29 年 2 月 26 日記

天候 晴れ

参加者 42 名 内会員 39 名



大きく膨らんだネコヤナギ。もう～すぐ春で～す！